

SILENT PULSE – IN/ 鼓動-内 紙

襖と板戸で仕切られた三つの部屋に設置したのは、この家に遺されていた子供の着物、和歌や俳句を読んだ短冊、そして遺言状である。これらをスキャナーにかけて紙に印刷しシュレッダーで裁断した。部屋の中央の畳を外し、裁断した断片を盛り込んだ。奥の部屋には、ここが産室に使われたこともあり子供の着物を、真ん中の部屋には、客人とともに楽しんだことから短冊を、そして手前の部屋には遺言状を配置することで、この家で過ごした人々の誕生と成熟と死のライフサイクルを暗示しようとした。残された遺物を掘り起こすことによって、この家にかつての活力を呼び戻すことが狙いである

SILENT PULSE – OUT/ 鼓動-外 木・塗料

裏山の竹林に混じる杉と檜の老木、その老木に同じ杉と檜材で作った半球を設置した。この半球は内から湧き出る木のエネルギーの象徴であり、その息吹が裏山全体に反響する。色はその響を強調するためであるが、屋内のインスタレーションで用いた短冊の色と合わせることによって、しばらく鎖されていた裏山と家屋との交流を再開させるためでもある。半球がそれぞれ三つなのは、文章でしばしば使われる記号・・・を念頭においているからである。・・・は、ディスクール（言述）の停止であり、言葉の喚起力は抑制される。無言の中で老木のエネルギーに感応することを意図している。

FUSION/ フュージョン 木・食材・塗料・

この作品は土間に残された大きな火鉢から着想を得た。火鉢の中には、言葉を大事にしたこの家の人々に対するオマージュとして、黒のラッカーで色付けした文字と数字を盛り込んだ。文字が半ば溶融し判別し難くなっているのは、言葉の意味機能を沈静化することで言葉と人間の間を問い直す作家の年来の問題意識による。隣の部屋のインスタレーションと較べて、マグマのような強い物質性を喚起するが、どちらのインスタレーションも光を微妙に反射することで、内と外の微かな交流を暗示させようとした。

セシル アンドリュ